

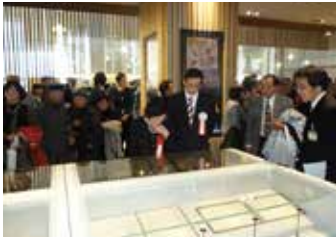
福井県ふるさと文学館報

ふる文ニュースレター

第1号

福井県ふるさと文学館開館！

平成二十七年二月一日（日）、福井県ふるさと文学館が福井県立図書館内に開館しました。図書館多目的ホールで開館記念式典を開催し、特別館長に就任した津村節子氏や藤田宜永氏、石川九楊氏、山崎光夫氏ら福井ゆかりの作家をはじめ、山崎一穎全国文学館協議会長、田村康夫福井県議会議長ら来賓の方々や関係者など、約百名に臨席いただきました。西川一誠福井県知事は、「全国でも例のない図書館、文書館、文学館、白川文字学の室の三館一室のメリットを活かして、作家や作品を通じて福井の文化や風土を理解し、ふるさとへの誇りや愛着心を高めてほしい」と挨拶。この後、文学館前に移動してテープカットで幕開けとなりました。



津村節子特別館長開館式典でのことば

福井に大変大きな図書館ができたという話は荒川洋治さんがレギュラーで出ていらしたラジオで聞きました。日本一だと自慢してらっしゃいましたから、それは分かっていたのですが、「文学館というのが徳島にはないのよ」という話を前々から寂聴さんが残念そうに言うものですから、私も「福井も文学館がないのよ」と言っていました。ところが二〇〇二年に徳島県立文学書道館というのができまして、講演に行ったことがあるのです。それから十年以上経ちますが、この文学館ができて寂聴さんに早速電話をかけようと思います。図書館と違って、本をたくさん揃えている読書の施設ではなくて、文学を通じて福井ゆかりの作家の作品や資料を展示し、さまざまなテーマに因んだ催しをして、来館した方々が交流できる場にしていただきたいと思います。以前、橘曙覧記念文学館で、吉村昭が書いた『雪の花』という天然痘の治療に尽した笠原白翁の展示をしまして、白翁が使った種痘のメスや資料などが全部展示してあったのです。文学館というのは一つのテーマを決めて、そしてそのテーマに沿って関連の資料を展示することにより更に身近に感じられるようになると思います。この立派な施設でいろいろな催しをして、来館した方たちを啓発していただきたいと思います。今日はこんなに嬉しい開館式に出席出来て、ありがとうございます。



文学館案内

福井ゆかりの作家や作品に親しんでいただき、文学からふるさとの文化や風土の良さを再認識いただくとともに、文学を通じた新たな交流、創造の拠点を目指しています。

より多くの県民の皆様が繰り返し訪れていただくとともに、読書活動と文学への興味・関心を高めることとの相乗効果を上げるため、全国でもあまり例のない、図書館や文書館と併設して整備しました。

福井の文学に関する資料の収集保存、様々なテーマの企画展の開催、若手作家と交流できる文学サロンや、若者を対象にした小説の書き方に関する専門講座など創作活動に参加いただく機会を積極的に設け、福井の文学を次世代に継承し、文学を通して多くの方々が交流できる場所になるよう工夫し、文学や創作への関心を高めていきます。

施設紹介

1 外観

図書館ゲートを通過すると右方向に見えてくる、縦のラインが印象的な箱型の建物がふるさと文学館です。展示室の外壁は県産スギの集成材を使用しています。

三つの展示ゾーンと映像コーナー、図書ゾーンで総面積は一〇二〇㎡です。



エントランス全景

2. 福井の文学プロローグゾーン

文学館入口に位置するこのゾーンは、福井の文学への導入として、その全体像を紹介しています。まず目に飛び込んでくるのは五十五インチのモニター二台を縦につなげたマルチスクリーン。文学館で紹介しているゆかり作家や福井を描いた文学作品に関する映像を見ることが出来ます。ゾーン内の両壁面は棚になっており、ゆかり作家約三十名を紹介する「福井ゆかりの作家」と、福井が登場する作品を海、まち・むら、食など七つのカテゴリに分けて紹介する「福井を描いた文学」のコーナーを設けています。ゆかり作家の棚では、初版本や原稿、愛用品のほか、詩人・則武三雄の自宅を再現したミニチュア人形や俵万智の短歌に親しめるチョコレートBOX、加古里子の創作の原点を紹介するしかけ展示などで、見て、触れて、気軽に文学に親しんでいただけます。

また、県内の作家ゆかりの地や作品登場スポット、文学碑などをタッチパネルで簡単に見ることのできる「福井文学マップ」や、ゆかり作家のつながりがわかる関係図などで、福井の文学に関する知識を深めていただけます。このほか、文学賞受賞や季節の話題、新着資料など句の情報を紹介するタイムリースポットコーナーがあります。



福井文学マップ



福井の文学プロローグゾーン

3. 代表作家ゾーン

文学と政治という重い課題に挑むとともに故郷の愛すべきとばや生活を描いた文学者中野重治、戦中から戦後にかけて三国に漂泊し福井の文学隆盛のきっかけを作った三好達治、自らが生きた昭和激動の時代を文学の中で表現し続けた高見順、人間社会の不条理や日本の自然・文化を見つめた作品を多く発表した水上勉、福井の伝統の中でひたむきに生きる女性たちを描く津村節子。ゆかり作家の中でも、特に活躍した五人の作家にスポットを当て、自筆原稿や書画、愛用品を中心に展示し、その生涯や作品について紹介しています。

高見順の詩「おそろしいものが」の世界を音と光と人形の動きで表現するハムットーニのからくり箱▽や、中野、高見、水上それぞれの終戦の日をテーマにした映像展示へある日の記憶▽といったしかけ展示もあり、作品世界や創作の背景を感じていただけます。



代表作家ゾーン



ムットーニのからくり箱

4. 企画展ゾーン

福井ゆかりの作家をはじめ、文学に軸に様々なテーマの企画展を行うゾーンで、自筆資料や愛用品など実物展示のほか、映像資料も活用した展示を行っています。代表作家ゾーンと一体化した大規模展示も可能となる、自由なレイアウトのできる展示空間です。



5. 映像コーナー

一三〇インチの大型スクリーンを備えた映像コーナーでは、代表作家五人と福井との関わりを、彼らが生きた時代の風景や作品、映像資料で紹介するハムットーニを愛した文人たち▽(十二分)を上映。また、個人ブースを二席設け、作家本人が登場するニュース映像や講演などの映像・音声資料を視聴できます。ふるさと文学館では、主催イベントの記録映像やゆかり作家を知る人たちへのインタビューなど、様々な福井の文学シーンの記録も進め、作家の実像や作品の背景に迫る展示を行うとともに、貴重な記録として次世代に継承していきます。



映像コーナー



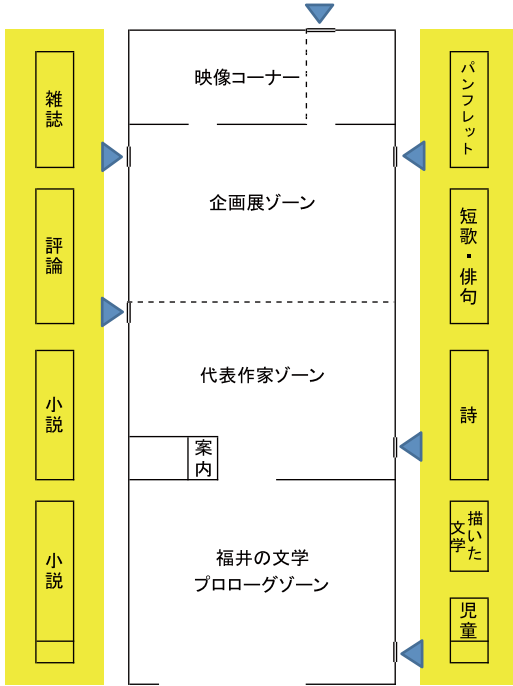
企画展ゾーン

6. 図書ゾーン

展示室の周囲にはゆかり作家や福井を描いた作品のほか、福井県出身の若手作家の著作、県内文学同人誌、個人出版の歌集、詩集など、福井の文学に関する資料を配置し、展示を見てすぐに関連資料を読むことができるようにしています。小説、詩、短歌などジャンル別に作家名の五十音順に並べており、約一万冊の資料を収容できます。

書架背面のベンチでは庭園の景色を楽しみながら読書ができ、貸出シールが貼つてある資料は、図書館カウンターで借りることができます。

図書ゾーン



図書ゾーン



開館記念特別展

「津村節子と吉村昭果てなき旅〜夫婦作家の軌跡〜」

会期 平成二十七年二月一日(日)〜四月五日(日)

開館を記念して、特別館長に就任された福井出身の津村節子と夫の吉村昭を取り上げた特別展を開催しています。

津村は学習院大学短期大学部時代に大学文芸部の委員長であった吉村と出会いました。

当時、文学のことを津村は「いのちをかける仕事」、吉村は「つきつめた戦ひ」「孤独に徹した仕事」と手紙に綴っています。若き二人は数百通にのぼる書簡を交わし、文学を志すという決意を確かなものにしていったのです。それは身を擦り切り切らせながら文学を追求する果てなき旅への始まりでした。

特別展では、二人の学生時代の出会いや文芸部での活動、さい果ての旅より始まった夫婦の生活や作品の執筆過程など、一つ屋根の下に暮らした夫婦





書齋復元



学習院講堂前（一列目左より四番目吉村、二列目左端津村）

作家の軌跡を通して、作家という存在の厳しさとそこから生み出された作品の魅力を紹介しています。

展示資料は約一五〇点、夫婦の往復書簡や吉村が死の直前まで推敲を重ねていたという絶筆の原稿「死顔」、第五十九回菊池寛賞を受賞した津村の原稿「紅梅」等を初公開。また、津村の父が約八十年前に福井で撮影した一家団欒の映像や吉村の夫・敦賀取材風景等貴重な映像資料を交え作家の実像に迫っています。

吉村は津村に宛てた手紙の中で、「人間によくも文学と云ふ仕事を与へてくれたものです」と記しています。文学館では、今後も「文学といふ仕事」に向き合う作家たちの生涯や作品を取り上げ、紹介してまいります。



特別展にあたり、貴重な資料や作品を提供いただきました荒川区や日本近代文学館、並びに協力いただきました関係者の皆様に對し、厚くお礼申し上げます。



全国文学館協議会共同展示「福井ゆかりの作家と災害」

会期 平成二十七年二月二十七日（金）～三月二十五日（水）

全国文学館協議会（約一〇〇館加盟）の共同展示「3・11文学館からのメッセージ」に合わせ、当館ではゆかり作家という身近な作家の作品を通して、あらためて震災と復興について考える機会を提供したいという思いから、タイムリースポットコーナーで展示を行いました。昭和二十三年に起きた福井地震に関する中野重治、多田裕計の著作や、平成二十三年に起きた東日本大震災に関する俵万智や宮下奈都の著作を写真パネルとともに展示し、作家が災害をどのように見つめたかを紹介。また、特別展では、

明治・昭和期の三陸海岸大津波の体験を取材した吉村昭の自筆ノートや、津村節子の原稿「三陸の海」を展示しました。



開館記念イベント

二月に開催したイベントを紹介します。

開館記念対談「夫婦作家が語る！小説家の人生」

二月一日（日）、福井県出身で夫婦ともに作家という共通点を持つ芥川賞作家・津村節子氏と、直木賞作家・藤田宜永氏の対談が行われ、約二五〇名が参加しました。津村氏は芥川賞を受賞した時、夫の吉村昭氏に勤めをやめて小説に専念してほしいと頼んだそうです。二人で書いていても相手が順調だと焦るし、進まないし心配になると夫婦作家ならではの苦労を吐露すると、藤田氏も妻の小池真理子氏が執筆している様子を見て「そんなに進んでいるのか」と落ち込むこともあった」というエピソードを披露されました。津村氏は十歳まで、藤田氏は中学卒業まで福井に住んでおり、同じ幼稚園に通ったことや福井で過ごした思い出についても触れるなど、ふるさとへの熱い思いの伝わる対談となりました。お二人のユーモアあふれるやりとり、会場は温かな雰囲気になりました。



+

語りと独演「越前竹人形」

二月八日（日）には、水上勉と親交のあった俳優・坂本長利氏による福井県を舞台にした『越前竹人形』の独演会を開催し、約七十名が参加しました。原作は昭和三十八年に発表、水上勉自ら書き改めて昭和五十七年に初演されました。水上勉いわく「土のおいにする百姓のような俳優」の坂本氏は、喜助、玉枝、船頭など一人で何役も登場人物を演じ分け、観客は物語の世界にすっと引き込まれました。

第一回福井県高校生ビブリオバトル

二月二十一日（土）に、県内初となる高校生ビブリオバトルの県大会を開催。県内十六校の生徒二十四名が六グループに分かれて予選を行いました。決勝戦では約一七〇名の観戦者が見守る中、SF小説や時代小説、ドキュメンタリーなど様々なジャンルの本が紹介され、発表者たちは読むきっかけやその本の楽しみ方など、おすすめポイントをアピールしました。最優秀賞のチャンプ本は、『エンジェルフライト』に決定！この本を紹介した武生東高校二年小野涉さんは、「エグくなった人の尊厳を守り遺族の心を癒す国際霊柩送還士という仕事を知って、この仕事をしている日本人を誇りたいと思う」と述べ、観戦者の読んでみたいという好奇心をくすぐりました。



+



朗読会（多田裕計『荒野の雲雀』）



創作講座（足羽高校）



リレー講演会（窪島誠一郎氏）

平成二十六年度は、ふるさと文学館開館に向けて、文学に親しみ興味関心を高めていただくため、開館ブレイブメントとして講演会や講座、朗読会、芝居、映画上映会など文学に関する様々なイベントを開催し、多くの方々にご参加いただきました。

開館ブレイブメント



| 開催日 | イベント名 | 講師など | 会場 |
|-----------|------------------------------|----------------|------------|
| 5/17(土) | 文学講座「橘曙覧と福井藩歌壇」 | 久保田啓一氏 | 県立図書館 |
| 5/18(日) | 一人芝居「曙覧のうたばなし」 | 佐々木雪雄氏 | 県立図書館 |
| 6/15(日) | 朗読会「多田裕計『荒野の雲雀』」 | 下條英子氏・八木美沙子氏 | 県立図書館 |
| 7/6(日) | 朗読会「山本和夫の詩と児童文学」 | 津田さとみ氏 | 若狭図書学習センター |
| 7/6(日) | 学習講座「ふるさとの文学」 | 岩田陽子(当館学芸員) | 若狭図書学習センター |
| 7/8(火) | 創作講座「短歌・詩」 | 市村善郎氏・川上明日夫氏 | 鯖江高校 |
| 7/9(水) | 創作講座「文章」 | 増永迪男氏 | 足羽高校 |
| 7/10(木) | 創作講座「短歌」 | 上田善朗氏 | 敦賀高校 |
| 7/11(金) | 創作講座「詩」 | 川上明日夫氏 | 春江工業高校 |
| 7/20(日) | シリーズ作家を語る「三好達治」 | 大森喜代男氏 | 県立図書館 |
| 7/26(土) | 文学サロン | 桂美人氏 | 県立図書館 |
| 8/23(土) | 朗読会『梨の花』 | 森本茂樹氏 | 坂井市高椋公民館 |
| 9/23(火・祝) | 朗読会「吉村昭『天狗争乱』」 | 福井商業高校・北陸高校放送部 | 県立図書館 |
| 9/27(土) | リレー講演会「父 水上勉のこと」 | 窪島誠一郎氏 | みくに文化未来館 |
| 10/5(日) | シリーズ作家を語る「友 水上勉」 | 中條榮一氏 | 県立図書館 |
| 10/5(日) | 映画上映会「越前竹人形」 | | 県立図書館 |
| 11/2(日) | ティーンズ講演会「東川篤哉トークショー」 | 東川篤哉氏・飴田彩子氏 | 県立図書館 |
| 11/8(土) | リレー講演会「福井の思い出」 | 平岩弓枝氏 | 県立図書館 |
| 11/16(日) | リレー講演会「『無茶の勤兵衛』誕生まで」(大野市と共催) | 浅黄斑氏 | 学びの里「めいりん」 |
| 12/10(水) | 作家出前授業 | 中沢けい氏 | 武生東高校 |
| 12/11(木) | 作家出前授業 | 柚木麻子氏 | 福井商業高校 |
| 12/21(日) | 朗読会「津村節子『百合の崖』」 | 萩原有紗氏 | パレア若狭 |
| 12/21(日) | ワークショップ「はがき用掛軸づくり」 | 白崎由美子氏 | パレア若狭 |



寄贈受贈

ふるさと文学館の整備にあたり、これまで多くの方々から福井ゆかりの作家の自筆原稿や愛用品等の貴重資料、また初版本などを寄贈いただきました。ありがとうございます。平成二十四年四月から二十七年二月に自筆資料を寄贈された方を紹介します。

今村佳子様、浦西和彦様、岡部ケサ代様、沖久也様、小畑昭八郎様、片山君子様、川島かほる様、久我元様、古賀雪江様、小不動和明様、竹長吉正様、津村節子様、中條榮一様、野呂昶様、廣部恭子様、本多佳江様、故水島直文様、山崎武雄様、山本祐夫様、吉田文雄様、渡辺喜一郎様（五十音順）

資料寄贈のお願い

文学館では、福井の文学に関する資料を網羅的に収集・保存し、次の世代に継承するとともに展示などで活用してまいります。福井ゆかりの作家や作品に関する資料（自筆原稿、書簡、書画、挿絵、愛用品、写真、映像等）がございましたら、文学館まで寄贈くださいますようお願いいたします。

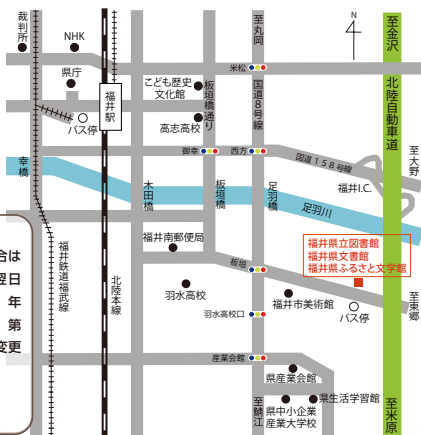
へ予告

「風のうた〜ふる文コレクション展〜」

会期：平成二十七年四月十八日（土）〜六月二十八日（日）
舞い上がる風のように生き、ふるさとの風土をうたい、文学



の風を世に送りつづけた福井ゆかりの「詩・短歌・俳句」の作家たちにスポットをあてたコレクション展を行います。
創作活動に身を捧げ風のように生き抜いた中野鈴子、森田愛子、山川登美子、厳しくもあたたかい福井の風土を詠んだ岡部文夫、皆吉爽雨、山本和夫、吉田正俊、福井に地方主義の風を起こした則武三雄と彼の主宰した北荘文庫から世に出た作家たちについて、館蔵資料を中心に紹介します。薫風の季節に、ふるさと文学の風を感じてみてはいかがでしょうか。



観覧料：無料
休館日：毎週月曜日（休日の場合は翌日）、祝日の翌日（翌日が土日の場合は除く）、年末年始、資料点検期間、第4木曜日（月によって変更あり）
開館時間：平日 9時～19時
土日祝 9時～18時



福井県ふるさと文学館報
ふる文ニュースレター 第1号

発行日 平成27年3月31日
発行所 福井県ふるさと文学館
福井市下馬町51-11
TEL：0776-33-8866
http://www.library-archives.pref.fukui.jp

福井県 FUKUI MUSEUM OF LITERATURE
ふるさと文学館

(55030)